

学会記事

第28回徳島医学会賞及び第7回若手奨励賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなり、初期臨床研修医を対象とした若手奨励賞は第238回徳島医学会平成20年度冬期学術集会（平成20年2月15日、長井記念ホール）から設けられることとなりました。徳島医学会賞は年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各回ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られ、若手奨励賞は応募演題の中から最も優れた研究に対して2名に贈られます。

第28回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定し、第7回若手奨励賞は次の2名の方々に決定いたしました。受賞者の方々には第245回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号に掲載予定です。

徳島医学会賞 （大学関係者）



氏 名：坂東 美佳
生 年 月 日：昭和58年6月25日
出 身 大 学：徳島大学医学部医学
科
所 属：徳島大学大学院ヘル
スバイオサイエンス
研究部循環器内科学
分野

研 究 内 容：脂質低下療法による頸動脈プラーク安定化の評価：超音波 integrated backscatter を用いたカラーマッピングシステムの臨床応用

受賞にあたり：

この度は第28回徳島医学会賞に選考していただき、誠にありがとうございました。選考委員の諸先生方ならびに関係各位の皆様には深く感謝申し上げます。

今日、動脈硬化性疾患の診療において頸動脈エコー検査が活用されており、虚血性心疾患および虚血性脳疾患においては、頸動脈プラークの存在ならびにその組織性状がその発症に関与していることが知られています。エコーにおいて本来の組織性状を反映している RF 信号から IB 値（Integrated backscatter：超音波後方散乱信号）を用いた定量化の研究が進められており、冠動脈では IB を用いた IVUS によるプラーク性状評価が可能となつて

います。しかしながら、頸動脈に関しては、実用化に至っていないのが現状であり、われわれはプラークの組織性状を定量化するために IB を用いたカラーマッピングシステムである iPlaque を開発しました。CEA（頸動脈内膜剥離術）で摘出された標本と術前の頸動脈エコー検査の iPlaque 解析において、病理所見とカラー表示が一致することを確認しており、今回の研究では iPlaque を用いて、頸動脈プラークにおける脂質低下療法の有効性を評価しました。結果、プラークの組織性状について、有意差をもって脂質成分が減少したことが確認されました。今回の研究において、iPlaque を用い、脂質低下療法が頸動脈プラークの安定化に有用であり、他の薬剤でもプラーク性状の変化の評価に有用なツールになりうると考えられました。今後は IB-IVUS との比較やプラーク性状による心脳血管イベントの予測に利用できるよう、精力的に研究を進めていく次第です。

最後になりますが、日頃より御指導、御鞭撻いただいております徳島大学病院循環器内科の山田博胤先生、佐田政隆先生ならびに徳島大学病院超音波センターのスタッフの皆様には心から御礼申し上げます。また、病理組織解析を行うにあたりまして御協力いただきました徳島大学病院脳神経外科の皆様にはこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

（医師会関係者）



氏 名：西内 健
生 年 月 日：昭和28年7月12日
出 身 大 学：徳島大学医学部医学
科
所 属：川島病院 循環器内
科

研 究 内 容：徳島高血圧・糖尿病 study 2011

—高血圧・糖尿病合併例に関する多施設研究—

受賞にあたり：

この度は第28回徳島医学会賞に選考していただき、誠にありがとうございました。選考委員の先生方ならびに関係各位に深く感謝いたします。

循環器疾患の診療では、虚血性心疾患症例の比重が大きく、糖尿病や耐糖能異常の合併が多いと感じています。高血圧、糖尿病はメタボリック症候群の主要な構成要素であり、その合併症例は心血管イベント発症率が高く、生命予後が悪いことが知られております。前回2004年に徳島県内で診療されている循環器専門医、糖尿病専門医の先生方にご協力をいただき、高血圧糖尿病合併症例の治療状況につき調査し、平成16年の第229回徳島医学会で発表いたしました。

その後高血圧治療ガイドラインは2009年版に、糖尿病

治療ガイドは「2010」に改訂され、降圧薬、糖尿病用薬も変化しました。その後の治療状況の変化を知るため、今回再度同様の調査を行いました。調査は前回同様「徳島循環器・糖尿病ジョイントミーティング」の世話人の先生方にご協力をいただきました。前回の調査に比べ、HbA1c、LDL コレステロールなど各指標のコントロール状況は改善しているものの、血圧・血糖・脂質すべてが管理目標を満たしている症例は思ったより少ないという結果でした。今後の診療の参考となる結果が得られたと思っております。

多忙な診療のなか、症例を登録していただきました先生方に厚くお礼を申し上げます。

若手奨励賞



氏 名：矢野 祖^{やの はじめ}
 生 年 月 日：昭和60年12月14日
 出 身 大 学：徳島大学医学部医学
 科
 所 属：徳島大学病院卒後臨
 床研修センター

研 究 内 容：神経サルコイドーシスの1例
 受賞にあたり：

この度は徳島医学会第7回若手奨励賞に選考頂き誠にありがとうございます。選考していただきました先生方、並びに関係者各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

神経サルコイドーシスは疫学的には人口100万人あたり1人の発生率ともいわれる非常にまれな疾患ですが、その約半数が神経症状を初発症状として発症することや、精神症状から疼痛に至るまで多彩な神経症状を呈することから他疾患との鑑別が困難な例が少なくありません。

神経サルコイドーシスの長期予後に関しては十分な検討がなされていませんが、中枢神経病変に関しては2/3以上が治療反応性であるとされる一方で、その死亡率は10%前後と他臓器病変の約2倍と高率であることも報告されています。神経・筋病変は他の臓器病変に比して発症から短期間で不可逆的な変化が生じる可能性も示唆されており、早期診断・治療が重要であるといえます。しかし、検査精度の向上や画像診断技術が向上した現在においても血液検査や髄液検査を含めた補助的検査の感度は概ね70%程度と高くないことから、早期診断に至るためには鑑別として本疾患を念頭に置き、神経学的検査を含めた複数の検査を組み合わせる行うことが必要です。本症例においても、発症から2ヵ月以内に診断、治療が開始されたことでVAS10の非常に強い体感部の疼痛が1程度にまで改善したこと、その重要性を強く認識しました。

最後になりましたが、研修期間中にも関わらずこのような貴重な機会を与えてくださり、非常に多くのご指導

を賜りました呼吸器・膠原病内科学の諸先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご支援くださる卒後臨床研修センターの佐田先生、西先生、上田先生、梶浦先生、渡部先生、スタッフの皆様へ心より御礼申し上げます。



氏 名：高橋直希^{たかはしなおき}
 生 年 月 日：昭和61年4月27日
 出 身 大 学：徳島大学医学部医学
 科
 所 属：田岡病院 救急科

研 究 内 容：約10分間の心停止にも関わらず病院間連携で社会復帰した Brugada 症候群の一例
 受賞にあたり：

この度は徳島医学会第7回若手奨励賞に選考頂き誠にありがとうございます。選考していただきました先生方、並びに関係者各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成17年度より全国でウツタイン様式によるデータ収集が行われるようになり、以前に比べ客観的に心肺停止症例を評価できるようになりました。その結果、例えば目撃のある心原性の心肺停止からの社会復帰率は、平成17年度には全国でわずか3.3%でしたが、平成22年度には6.9%まで上昇しております。またこのうち市民による心肺蘇生が行われた症例に限ると社会復帰率は9.5%にまで達していることなどが解析できるようになりました。AHA ガイドライン2010では、心肺蘇生時において胸骨圧迫の重要性がさらに強調されるようになりましたが、このことが十分に周知されましたら、市民による心肺蘇生実施率の向上が見込まれ、結果としてさらなる社会復帰率の上昇が期待される所です。またAHA ガイドライン2010では、蘇生後の治療についても言及されており、低体温療法をはじめとする適切な集中治療を施すことによって、社会復帰率上昇が期待されています。本症例はまさしくその好例であると考えられました。

ウツタイン様式によるデータ収集が行われるようになって以降、心肺停止症例は三次救急病院に搬送されることが多くなっています。しかし、本症例のように蘇生後に病院間連携を円滑に行うことが可能であれば、直近の二次救急病院が心肺停止症例を受け入れることも十分に可能であると強く認識いたしました。

最後になりましたが、研修期間中にも関わらずこのような機会を与えてくださり、また非常に多くのご指導を賜りました田岡病院の諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また日頃よりご支援くださる徳島大学卒後臨床研修センターの佐田政隆先生、西京子先生、上田由佳先生、渡部真也先生、スタッフの皆様方にも心から御礼申し上げます。